

# 内務省特報



◎内務省告示第四百二號

市制第三條及町村制第三條ニ依リ昭和十五年七月一日ヨリ

新潟縣刈羽郡柏崎町ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ柏崎市ヲ置ク

昭和十五年六月二十八日

内務大臣 伯爵 兒玉 秀雄

◎内務省告示第四百三十六號

市制第三條ニ依リ昭和十五年八月一日ヨリ岐阜縣土岐郡多

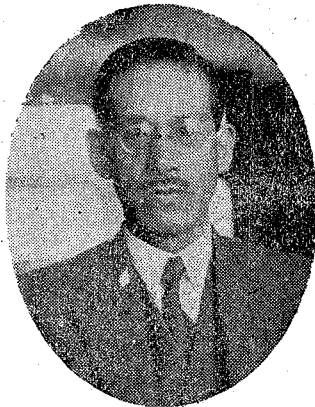
治見町ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ多治見市ヲ置ク

昭和十五年七月二十五日

内務大臣 安井 英二

## ◎安井 内相

内務省特報



内相兼厚相に

決定した安井英

二氏は岡山縣出

身本年五十一歳

東京帝大法科在

學中高文試験に

合格、大正五年

卒業、直ちに内務省に入り東京府屬、同理事官、警保局事

務官外務事務官、社會局事務官兼内務事務官、同書記官、

内務大臣祕書官、岡山縣知事、社會局労働部長、内務省勞

働局長、大阪府知事などを歴任し第一次近衛内閣の文部大

臣となり後荒木貞夫大將に椅子を譲つて勇退、貴族院議員

に勅選され今日に至つた。

◎安井兒玉新舊兩大臣の挨拶

七月二十二日の内閣交迭に依り兒玉秀雄伯爵辭し其後任として安井英二氏内務大臣となられたので七月二十三日午後三時大會議室に全省員集合し新舊兩大臣の挨拶があつた先づ兒玉前大臣壇上に立たれて就任以來非常なる御同情と御援助とに依り職責を完ふすることを得たるを心から感謝する、然るに何等爲す所なかりしことは恐縮の外なき次第である、此度の政變に依り内務省を去ることとなつたが不相變御懇情を給はり度御願ひする。國家益々多事多難なるの秋皆様の御自重を望み重ねて永く御懇情を切望する次第であるとの意を述べられ、次て安井新大臣は徐ろに歩を壇上に進めて私は今回圖らずも時局益々重大を加ふるの際此大任を拜受することとなり一大覺悟を以てひたすら大御心を奉載して奮勵精進する次第であります。私は直接間接に本省又は地方廳に在つて皆様からの厚き後援助を蒙り常に感謝して居るのであります。今内務大臣の大任を拜受しま

したに付きましては更らに皆様の甚大なる御援助を御願ひする、兒玉前大臣は社會に於て政治界に於ての大先輩であられます其後を未熟なる身を以て其職を繼ぎますに就いては一段の御援助御同情を希ふ次第であります、否寧ろ皆様は苦言を以て御援助せられます様に心から御願ひします尙皆様は其職を楽しむ様に心懸けられ此重大なる時局に際して大御心に副ひ奉らるる様に御願ひしますとの旨を以て挨拶せられ大達次官は廳員を代表して前大臣に感謝の意を述べ新大臣には本省とは深き縁をもたるる關係であつて此度は内務省に御歸りになられたれば倍舊の御指導を賜はらんことを御願ひすると答辭を述べられた。兒玉前大臣は皆さん左様ナラとの一言を残されて會議室を出られた。前大臣が其の就任の挨拶に「オヤヂの顔に泥をぬりたくない」と言はれて約半歳の間まことにほがらかな心構で廳員を指導せられたるは忘れ難き印象である。新大臣の嚴肅謹嚴其のものゝ如き風采に接してそゝるに襟を正ださる思ひする。

◎新 內閣 員表

位階勳等爵位	氏名	年 齡	經 歷	出身地	出身校
內閣總理大臣	近衛文麿	五〇	前內閣總理大臣、前樞密院議長	東京	大正六京大法
外務大臣	松岡洋右	六一	前滿鐵總裁、前內閣參議	山口	米オレゴン大學
兼外務大臣	安井英二	五一	前文部大臣、貴族院議員	岡山	大正五東大法
內務大臣	河田 烈	五八	前內閣書記官長、東亞海運社長、貴族院議員	東京	明治四一東大法
兼厚生大臣	東條英機	五七	陸軍航空總監兼航空本部長	岩手	明治三八士官學校
大藏大臣	吉田善吾	五六	海軍大臣留任	佐賀	明治三七兵學校
陸軍大臣	風見 章	五五	前內閣書記官長、衆議院議員	茨城	明治四二早大政治
海軍大臣	橋田邦彦	五九	一高校長兼東大教授、醫學博士	東京	明治四一東大醫
司法大臣	石黑忠篤	七五	前農林次官、中金理事長	東京	明治四一東大法
農林大臣	小林一三	六八	東電會長	山梨	明治廿五慶大
商工大臣	村田省藏	六三	大阪商船社長、貴族院議員	東京	明治三三東京高商
兼鐵道大臣	星野直樹	四九	滿洲國總務廳長官	東京	大正六東大法
無任所大臣					
企畫院總裁					

內務省特報

### ◎米内内閣の事蹟

米内内閣時代に於ける重要問題左の如し

- ▲昭和十五年一月十六日 親任式舉行
- ▲第七十五帝國議會再開
- ▲海運統制令公布（二月一日）
- ▲英艦淺間丸臨檢獨人拉致事件一應解決（六日）
- ▲電力調整令實施（十日）
- ▲紀元二千六百年大詔渙發さる（十一日）
- ▲國民學校教則案成る（廿七日）
- ▲日滿伊貿易協定六ヶ月延長（三月一日）
- ▲日羅通商協定成立（五日）
- ▲佛印當局盤谷丸臨檢、郵便物を多數沒收（七日）
- ▲佛印當局又も商船西貢丸を不法臨檢 郵便物多數沒收（十一日）
- ▲訪伊親善視察團派遣決定（十二日）
- ▲米内首相中華民國新政權態度闡明汪政權を支持事變の齎
- せる禍を轉じて福たらしむべく中外に開明した（十三日）
- ▲昭和十五年度總計百五十二億豫算成立（十五日）
- ▲劃期的稅別改革案議會通過（廿五日）
- ▲中華民國新中央政府樹立還都宣言、十大政綱發表（卅日）
- ▲帝國新中華民國新府支援を聲明（卅日）
- ▲阿部特命全權大使親任式（四月一日）
- ▲蘭印に對して有田外相重大聲明（十五日）
- ▲陸軍適正利潤率決定要領並に軍需工場經營指導要綱發表（廿一日）
- ▲帝國蘭印現狀維持に關し各國に申入れ（五月十一日）
- ▲蘭政府蘭印現狀維持再確認（十四日）
- ▲日滿伊三國通商交渉開始（廿四日）
- ▲湯淺内府辭任、後任木戸侯の親任式行はせらる（六月一日）
- ▲久原總裁内閣參議辭任（七日）
- ▲日泰定期航空實施（十日）
- ▲ノモンハン國境劃定交渉成立（九日）

▲日泰和親友好條約調印、南支那佛印の授蔣行爲斷じて看過し得ずと聲明を發す(十二日)

▲日支國交調整基本條項決定(十四日)

▲獨伊に對し我國の佛印に對する重大關心申込れ、△佛印の授蔣除去に關し對佛強硬要求、△在支交戰國軍隊の撤退要求(十八日)

▲天津租界問題に關し英佛と正式に覺書調印全面的に解決隔絶解除さる

▲佛大使谷次官を訪問、佛印授蔣問題に關し帝國の要求を全面的に容認(廿日)

▲日滿伊通商條約改訂成立(廿一日)

▲近衛樞相辭任後任に原嘉道博士親任(二十四日)

▲近衛公新黨乗出しを聲明、ビルマ、香港の兩授蔣ルート禁絶を英國に申入る(廿四日)

▲佛印に監視團及び艦艇の一部派遣(廿五日)

▲北支に無爲替輸入許可制實施(廿六日)

▲上海抗日分子取締りの日佛協定成立(廿七日)

▲有田外相新世界情勢に對應すべき新外交方針を闡明、東亞新秩序建設上わが南方政策の重要性を強調、暴利行爲等取締規則の劃期的改正令公布(廿八日)

▲新世界情勢に對應すべき本年度物動計畫正式決定

(廿九日)

▲近衛内閣成立(七月二十二日)

### ◎近衛首相の放送

七月二十三日即ち組閣の翌々日近衛首相は内閣總理大臣官邸より「大命を拜して」との題下に左の如き要旨の放送を爲し國民に重要な示唆を與へられた。

今回圖らずも大命を拜して國政總理の任を擔ふに至つた事は、私のまことに恐懼に堪へざる所であるが、この機會に所懐の一端を披瀝して、ひろく國民各位に御挨拶申述べたいと思ふ。

御承知の如くに世界の情勢は、最近に於て急轉直下し、驚くべき變轉をみたのである。舊來の世界秩序は歐洲から

先づ崩壊して今や世界の他の地域にまで及ばんとして居る、私は先に樞密院議長を拜辭したが、これは世界の此の重大なる變局に際し、我が國に於いては必ず國內體制の一新を圖らねばならないと考へ、微力をこれに致さんと欲したが爲であつた、蓋し國內に種々の意見が對立して互に相争ふといふことであつては力を外に専らにし得ず左顧右盼して勇斷の機會を失ふからである。

### 政黨の二一弊害

思ふに従來政黨の弊害は二つある、その一つは立黨の趣旨に於て自由主義をとり民主主義をとり或は社會主義をとつて其根本の世界觀、人生觀が既に國體と相容れないものがあるといふ點であつて、これは今日急速に轉回し抜本的に改正しなければならぬところである。その二つは黨派結成の主要なる目的を政權の争奪に置くことであつて、かくの如きは立法府に於ける大政翼賛の道では斷じて無いのである。以上二つの弊害を去つて日本の本當の姿に立ち歸り大御心を仰いで一億一心、眞實の御奉公を期しなければ

ならないと思ふ。

而して問題は決して單に政黨のみに止まらず、文武に於て、海陸に於て、朝野に於て、上下に於て、眞に心を一つにして 陛下の御教のまゝに大政を翼賛し奉らなければならぬのである。即ちこの新體制に於ては億兆心を一にして大御心を奉體し以てこの歴史的なる世界の重大變局に際し、内外に山積する幾多の問題を敏速に適切に解決しなければならぬ。然るに私は右の新體制を考へつゝある最中に圖らずも大命を拜して内閣を組織することゝなつたのである。よつて私は先づ政府部内に於てこの新體制の實施を期しなければならぬ事となつたのであるが、幸にして陸海軍の間に於て又陸海軍と外務との間に於て完全なる一致提携を見ることが出来たのでこゝに内閣は不動の方針の下に今後如何なる困難をも克服して眞直ぐに邁進する事が出来ると思つて居る。

### 獨自の外交へ

今その方針の二、三を述べるに先づ外交に於ては飽くま

て帝國獨自の立場に立ち帝國獨自の道を歩むものでなければならぬと思ふ。獨自の道と申してもそれは消極的自主

外交を意味するものでは決してない。單に此世界的變局に對應すると言ふだけでなく自ら世界的變化を指導し、自らの力に依つて世界の新秩序を作り上げるといふ覺悟がなければならぬ。従つて外交は目前の動きに囚はれるべきものでなく必ず十年先を考へ二十年先を考へ五十年先を考へてあくまで自主的積極的建設的に進まねばならぬものと思つて居る。次に經濟に於ては右の外交國策の強き實現の爲に

一日も早く外國依存の體形より脱却しなければならず、滿洲、支那との經濟提携並に南洋方面に對する發展は此意味に於て益々必要の度を高めつゝあるのである。もとより尙今後暫くの間は物資の不足を告げて需給の圓滑ならざる事もあらうと思ふ、之に對し政府は其の全力をあげて國民の生活必需品の確保を期する考へである。然し乍ら此の問題は實に一億の國民個々の日常生活に係るのであつて國民の全部が皆私心を去り一面積極的増産に力を致すと共に他方

大節約に努めなければならぬ。

凡そ奢侈逸樂を事として興隆せる國家は未だ曾て之を見ない、政府に於ても豫算に出來るだけ削減を加へ、不急を除き、冗費を節したいと思つてゐる。而して民間に對しては種々の統制を行はなければならぬと思ふが、それも徒らに個人の創意を抑壓し、民間の希望を蹂躪するが如き考へは持つてゐない、むしろ内外非常の時勢に當面して、國民諸君が自ら奮つて喜んで眞の御奉公をなし得るやうに指導しなければならぬと考へてゐる。

#### 教育も大刷新

最後に教育であるが外交といひ、經濟といひ、時勢に應じて大轉回を試み、大困難を克服しようとする時に教育の方面のみ舊態を墨守する事は許さるべきでない、否、國家の前途を思ふ時には國策の成否、國運の消長は一にかゝつて教育の如何にあるといはなければならぬ。所謂皇國民の鍊成、之を我々は口先に於てではなく、又手先に於てではなく、その魂の根本に於いて實現して行かなければなら

ない。從來の學問が兎角抽象的思念を弄んで足の大地につかない弊のあつた事は深く反省しなければならぬ、而して眞に國體に徹し、國家を荷ふべき第二の國民を養成せんが爲には教育者自身道を重んずるの誠をもたなければならぬ、政府はかくの如き方針の下に教育の刷新を圖るつもりである。

以上私の考への一端を申述べたが、これは一端といへば一端であるが蓋し最も重要な點で、私は今新内閣の首途に當り之を申述べ國民各位の協力を御願すると同時に自らも勉勵してその實現に當り謹んで大政輔翼の道を盡したいと存する次第である。

◎農林大臣、樞密顧問官の親任

其他の交迭

七月二十四日左ノ通發表

任農林大臣 正三位勳三等 石 黒 忠 篤  
免兼官 内閣總理大臣兼農林大臣 公爵 近 衛 文 麿

任樞密顧問官

正三位勳一等 三 土 忠 造  
從二位勳一等 松 浦 鎮 次 郎

任内務次官

内務省地方局長 從四位勳三等 挾 間 茂

秋田縣知事

從四位勳三等 留 岡 幸 男

任内務省地方局長

厚生省勞働局長 正五位勳四等 藤 原 孝 夫

任内務省警保局長

内務次官 大 達 茂 雄

内務省警保局長 山 崎 巖

依願免本官

◎挾間、大達新舊次官の挨拶

七月二十四日内務次官の交迭あり、大達次官は辭職し挾

間地方局長其の後任となられたので同日午後三時半第一會議室にて全廳員に對し挨拶せられた。大達前次官は今回大





臣の交迭に伴ひ退職することとなりました、私は數年前福井縣知事を辭して以來滿支に職を奉じて居りました

が昨年小原内務大臣の爲めに意外にも再び内務省に勤務することとなり舊知の方々の御援助に依り今日に至りましたことを衷心から感謝する次第であります。今後とも不相變一層の交誼を御願するとの意を述べて退官の挨拶をせられ、挾間次官は私は此度先輩大達氏の後任として次官に任ぜられましたが非才果して其重責を完ふし得るや否を恐るるも皆様方の知遇に依り大臣の良き補佐官として其の職責を完ふせんことを希ふのであります。申すまでもなく今時世界の轉換期に際會し内務省も時代の脚光を浴びて一段の活動を要するの秋であります。廳員一同協力し以て其使命を達

内務省特報

成する様に御願ひする云々との就任の挨拶をせられた。飯沼神社官局長は全廳員を代表して大達次官の同年九月御就任以來親しみ深き御指導の許にありしを偲び惜別の情に堪へない、今時の國情は更に偉大なる人物を要求して居りますから自重自愛今後の爲めに備ふる所あらんこと御願ひします。又挾間次官におかせられては謹んで御就任に對し御祝詞を呈します何卒憚る所なく御鞭撻を加へられ時代の要求に應じて各員其職責を遂行し得る様御指導あらんことを御願ひすると答辭を述べられた。

夏草や火葬場跡の古煉瓦  
思はしげに白百合を手に車人  
橋普請萍に浮草に飽  
牧民の職退いて浮草に飽  
米乏し南爪花咲く水車小屋  
蔑切や傷兵の杖つく橋の朽ちてあり  
翡翠や構想ならすなやむ筆  
早乙女や唄は寄せて田草夫戀  
英靈の思ひを寄せて田草夫戀  
戦没の兄なき田植淋しかり  
雲の峯亂礁の藻にからむ魚

巴 藤